

第1回「エコシティたかつ」推進会議 摘録

- 日時：2011年7月21日（木） 15:00～17:00
- 場所：高津区役所 5階第2・3会議室
- 出席者：岸委員、田中（友）委員、住田委員、長村委員、山田委員、伊中委員、川辺委員、横山委員、三島委員、山口委員、田中（艸）委員、若杉委員、橋本委員、小林委員、鈴木委員、秋岡委員、上杉委員、北川委員（代理）、山本委員（代理）、大川委員
- 事務局：八木課長、佐藤担当係長、久保、田島、安藤課長、中村係長、菅谷

■配布資料

- 資料1 ヒートアイランドマップ等（案）
- 資料2 「エコシティたかつ」推進事業 2010年度概要版
- 資料3 2010年度「エコシティたかつ」推進事業の振り返りスライド
- 資料4 学校流域プロジェクト整備状況一覧
- 資料5 「エコシティたかつ」推進事業 2011年度スケジュール（案）
- 資料6 「エコシティたかつ」推進事業 プロジェクト展開スケジュール（案）
- 資料7 「たかつ節電大作戦2011」
- 資料8 エコ・エネライフコンクール関連資料
- 資料9 「エコシティたかつ」推進フォーラム（案）
- 資料10 「エコシティたかつ」推進会議 委員名簿
- 別紙1 読売新聞掲載記事（6月17日）
- 別紙2 第11回 川に学ぶ体験活動全国大会 in 鶴見川流域
- 別紙3 グリーンカーテンPROJECT2011

■議事概要

1 開会

進行役企画課佐藤係長より、開会を宣言。

2 岸委員長あいさつ

3.11の東日本大震災があり、皆様の暮らしにも変化もあるかと思う。今日は、久しぶりのエコシティたかつの推進会議になる。3.11から見えてきたものも自分たちの地域に還元し、エコシティたかつを推進していきたい。

3 副区長あいさつ

エコシティたかつの推進事業は、平成19年度から取り組まれてきた。今回の震災で、節電を含めたエコの重要性が注目され、エコシティたかつの取組が時代をリードしたものであることが確認された。また、先日は、FMヨコハマでもエコシティたかつの取組を発信した。今年度もより充実した活動になるよう、ご協力をお願いしたい。

4 議事

- (1) 高津区ヒートアイランドプロジェクト調査結果報告会及びヒートアイランドマップ等の作成について（資料1）

饗庭先生より報告

- ・2009年度、2010年度の2年間、大学の研究プロジェクトも兼ねて、市民の皆さんと取り組んだ。資料1のマップは、今後、広く配布予定の調査結果のみを載せたもの。表のマップは、区民にGPS付きの温度計を持って歩いてもらい、気温を測った結果。冬の朝、夏の朝、夏の日中の3つの状況を掲載している。大山街道や国道246号沿いが暑く、傾斜地では涼しいという結果が分かる。区民の生活感覚としても納得できる結果だったようだ。裏は、他に比べて相対的に涼しい場所を“クールスポット”と名付けて実態を調査し、それぞれのポイントの温度変化、区民評価のレーダーチャートを示した。

事務局より説明

- ・ヒートアイランドマップの作成・配布を予定している。本調査の結果は、エコシティたかつのホームページに掲載しているが、6/17読売新聞全国版にヒートアイランドプロジェクトに触れた記事が掲載され、区民から大きな反響があった。マップに関する問合せも多かったことから、資料1をA2版に拡大したものを8月中旬に発行する予定でいる。

<質疑応答>

- ・クールスポットと緑被率等との相関を取ると良い。地形の影響が大きいかもしれないが、根拠がつけば自信を持って公表できる。(岸委員長)
- ・学校の中にもクールスポットがある。西梶ヶ谷小では桜の木の下が、風通しがよく、緑も多い。家庭や学校、地域に発展していける考え方だと思う。(小林委員)
- ・その通りだと思う。植物は蒸散するので涼しくなるが、単純なものでなく、風の通りも重要である。結果を応用してほしい。(岸委員長)

(2) 2010年度推進事業の進め方について(資料3、4、5)

事務局(久保)から説明。

<質疑応答>

特に無し。

(3) 2011年度推進事業の進め方について(資料5、6、7)

事務局(八木課長)から説明。

<質疑応答>

- ・各種普及啓発活動の推進の一環として、高津エコツアーバス走行モデル事業と題し、使用済み天ぷら油を原料に作り出したバイオディーゼル燃料でマイクロバスを走らせる。バス会社は多摩区にある株式会社高橋商事。廃食油の回収はNPO法人川崎石けんプラントが行い、それを油製造業者に売却、バイオディーゼル燃料にしてもらい買い取る流れ。かわさきかえるプロジェクトと高津区地域振興課が全体コーディネーターを行う。区内のイベントに合わせて、体験走行、体験乗車を行いたい。皆様の取組の中の足としてもぜひ活用いただき、新しいエネルギーを体験してほしい。市民の皆さんに使用済み天ぷら油が地産地消の新エネルギーとして利用できるということを広報宣伝していきたい。(伊中委員)

- ・昨年まで、久地小学校のプールでのヤゴの救出大作戦に参加していたが、今年は声がかからなかった。（山口委員）
- ・実施時期が、放射能の問題が取り沙汰されていた時期であり、学校側も直前まで実施について慎重であったため、声をかけられなかった。今年に関しては、御理解をお願いしたい。（事務局八木課長）
- ・久末緑地では谷の中の流れが長く農業的な利用から離れているため、縦浸食を受けて、土壌の流出や保水力の低減などの課題あった。小流域単位の取組の一環として、上から杭を打ち込み、堰をつくった。今はそうしてできた池に、同じ水系のホトケドジョウを放し、ビオトープとしてうまく動くかどうかの実験を行っている。併せて、谷全体の低地部についても土壌浸食が進まないように工夫しようとして提案している。今後、まゆみの会が流域管理の観点からいろいろな工夫を重ねられると思う。次は市民健康の森でモデル実施してみたい。（岸委員長）
- ・まちづくり協議会でもイノ木緑地のそばにある川崎市の所有のビオトープの改善を進めている。TRネットにも来ていただき、我々で草刈りを行い、水面がみえるようにしたら、トンボが来るようになった。水がみえるようにすることは重要なことだと体感した。次は掻い掘りを行いたい。（伊中委員）
- ・まだ、地域の様々な状況について把握できていない部分もあり、情報収集が必要。例えば、民地等の問題があり、すぐに手が出せるとは限らない。久末緑地などでは、水循環健全を柱とし、防災の観点から谷地形に手をいれた結果、生物の多様性も非常に豊かになったということを実感してもらえている。このようなケースが増えてくると良い。今後、探検隊を組織することについても体制等の検討が必要となる。（岸委員長）
- ・円筒分水の次のステップとしての緑の回廊づくりは進んでいるのか。（岸委員長）
- ・円筒分水周辺については整備を進め、市民活動も活発だが、かすみ堤については国有地であるため課題が多く、様々な可能性を検討中である。（事務局八木課長）
- ・かすみ堤という名前はいつから使われているのか。久地の横堤とも言われているらしい。（田中（艸）委員）
- ・霞堤防ではないという意見もあり、ひらがなにしておいて、いわゆるかすみ堤と呼んだりもしている。（事務局八木課長）
- ・河川管理上の機能としては霞堤に間違いないと思う。激しい氾濫を阻止して、ゆるやかな氾濫に切り替えるもの。（岸委員長）
- ・自然の賑わいのプロジェクトについて、外来植物や外来生き物探しを含むとあるが、早めに取り組むのであれば、外来植物の見分け方を教えてほしい。（川辺委員）
- ・資料にある記述は企画段階では特定の候補地を想定して書いたものだ。トキワツユクサの群生地があり、そこを想定していた。（岸委員長）
- ・高津区のホームページから環境省にリンクを貼るという話があったが、どちらも楽しめるホームページになっていない。企業のホームページのようにブログなどを用い、訪れるたびに変化があると見にいきたいという気持ちになる。（川辺委員）
- ・環境省が高津区にリンクを貼るというお話である。また、エコシティたかつのホームページはこの4月に全面的にリニューアルした。市政だよりもあるが、即時性という意味では、ホームページは重要だと思っている。ただ、行政が行っている広報だと規制もあり、ブログなどは難しい。（事務局八木課長）
- ・エコ企業調査について、去年は、川崎の臨海部で予定していたが震災の影響で中止した。8月にオープンするメガソーラー施設や環境に関する学習施設などもあり、環境局からも利用の案内がある。（事務局八木課長）

- ・メガソーラーは8月上旬から稼働する。かわさきエコ暮らし未来館は8月6日にオープンし、館内からメガソーラーがよく見える。ぜひ活用して頂きたい。(北川委員)
- ・第1回はミットヨにいったが、その後、ミットヨと意見交換する機会ができた。できれば高津区内の企業を見にいけると良い。例えば、エコ・エネライフコンクールで賞をもらった企業やK S Pのエコ対策を見に行くのも良い。区内にある巨大施設の環境対策を知るのは価値があると思う。(伊中委員)
- ・当初はむしろ高津区内の中小企業でエコに関心の高い企業をスポットし、企業への啓発も含めての調査という考え方があった。高津区内には2つの中小企業の団体があり、今後、若い事業者と意見交換する機会を設けることも大切だと思う。(横山委員)
- ・学校流域プロジェクトは、整備が進んできた。特に南原小は雨水をうまく利用していると聞いている。西梶ヶ谷小にも雨水利用施設がある。水循環も考えながら、推進を図っていききたい。学校流域プロジェクト推進のためのフォーラムについては、教師の意識を高める研修が必要だと思い、秋の実施を提案した。西梶ヶ谷小か南原小をフィールドにして実施できると良い。(小林委員)
- ・水のビオトープ、草原のビオトープ、木立のビオトープ、そこまでは面白く、先生も乗ってくれるが、水循環健全の1つのシステムにするという次のステップが難しい。南原小はお金をかけずにできた。お金をかけない工夫をしてやっていきたい。(岸委員長)
- ・推進フォーラム、推進会議の日程は良いか。(岸委員長)
- ・意義なし。(一堂)
- ・ホテルの季節が終わるのを待ち、たちばなふれあいの森にビオトープをつくる計画をしている。将来的にはホテルが自然に育つようにしたい。(山田委員)
- ・TRネットのホテルプロジェクトでは、新横浜公園にヘイケボタルの幼虫を放し、あのような環境の中でさなぎまで育ち、成虫となって飛ぶかをチェックしている。うまくいけば、自然に増えるかどうかの検証もしたい。ゲンジだけでなく、ヘイケも考慮すると可能性が広がると思う。(岸委員長)

(4) エコ・エネライフコンクールについて(資料8)

事務局(安藤課長)より説明

<意見交換>

- ・募集期間が8月16日からだが、8月の電気使用料の請求は9月にくるのではないかと。(伊中委員)
- ・緑のカーテン部門を考慮し、8月から募集している。検針日はそれぞれ異なるが、概ね8月のもので実施したいと思っている。(事務局安藤課長)
- ・緑のカーテン部門の募集について、学校は「グループ」が良いのか。グループと個人の区別が難しい。(横山委員)
- ・実施要領の第4条2が個人・ファミリー部門になり、個人や家庭を対象としている。グループ・事業者は企業や学校も含む。(事務局安藤課長)
- ・写真で取組の詳細がわかるようにとあるが、節電については難しいのではないかと。(田中(艸)委員)
- ・写真については、緑のカーテンは必須だが、節電部門は必須ではない。審査では数字も大切だが、工夫した点を大切に評価したい。委託業者と相談し、分かりやすく表記するようにする。(事務局中村係長)
- ・節電は、9月ではだめなのか。(長村委員)

- ・同じ条件にするために8月と考えている。(事務局中村係長)
- ・あまり削減率にこだわらない方が良い。去年までたくさん使っていた人や家電を買い替えた人が有利になる。大事なのはエコの気持ちを育てることではないか。暮らし方の工夫が大切。(田中(友)委員)
- ・この取組の狙いは興味関心を広げようというものなので、あまり数値評価にこだわらない方が良い。(横山委員)
- ・審査委員会で徹底したい。(事務局安藤課長)
- ・パソコンで応募用紙がかけるようにワードなどの様式がホームページに載っていると良い。また、緑のカーテンを実際に体験するなど、身近な取組が伝わっていくことが大切で、かつ効果が大きい。あまりコンクールにこだわらない方が良い。(住田委員)
- ・数値ではなく、波及効果が大切。皆がまねして面白いものを評価してほしい。(岸委員長)
- ・1位、2位を決める競争的なコンクールではないというメッセージを伝えるため、賞の名前も工夫した方が良い。(横山委員)
- ・審査委員(2名)について立候補などはあるか。(岸委員長)
- ・審査委員には、個人ファミリー部門で小学生の応募もあると思えるので、事務局としては小林委員に入っていただきたい。(事務局安藤課長)
- ・了承した。(小林委員)
- ・もう1人はやはりエネルギー部門でやさしく節約を評価していただける方が良い。横山さんはいかが。(岸委員長)
- ・エネルギーについては、川崎市新エネルギー振興協会の鈴木さんが良いのではないかと。(横山委員)
- ・他にいなければ、引き受ける。(鈴木委員)
- ・では鈴木さんをお願いしたい。(岸委員長)

(5) 「エコシティたかつ」推進フォーラムについて(資料9)

事務局(佐藤係長)から事務局案に関する説明があり、大まかな枠組みについて了承された。

岸委員長から補足説明

- ・温暖化危機にエネルギーの節約や効率化など、緩和策だけで取組むのは国際水準と異なる。世界の先進国は、温暖化対策を電力節電などの緩和策だけで取り組んでいるわけではなく、併せて適応策を進めている。豪雨、土砂災害の対策を法で決めたり、自治体が計画を立てたりしていかなければならない。3.11で様々なことが明らかになった。津波は海から来る大洪水。土地利用の形によって被害の大小がはっきりと出た。ようやく日本は、温暖化対策とは土砂災害、豪雨対応をあらゆる地域で取組むことだと気づき、今年が取組の元年になるのではないかと思う。エコシティたかつは切り口を易しくしながらも、小流域地形を基本とした防災配慮の自然保全策の推進や、水循環の健全化を目指す学校流域プロジェクトなど、先進的な取組を進めてきていることを伝えていくことが重要だ。(岸委員長)

(6) その他

以下のとおり、各委員から自身の活動に関する情報提供等と、学識委員から全体の感想を含めたコメントがあった。

- ・昨年度、岸先生にまむし谷をご案内いただいた。概念としては勉強していたが、目の前の緑をみて、はじめてわかったという経験をした。探検隊にもぜひ参加したい。また、緑のカーテンについては、前回、本当にゴーヤーが良いのかという議論があったが、どうか。（三島委員）
- ・緑のカーテンは、ゴーヤーでなくても良いと思う。今年は、自身は夕顔、パッションフルーツでつくっている。夕顔は夜に良い香りがして、暑い夜を快適に過ごせる。今、仮設住宅に緑のカーテンをボランティアでつくる取組をしているが効果が出ると良いと思っている。いろいろなものを皆で試したら良いのではないか。コンクールに色々な案が出てくると良いと思う。（川辺委員）
- ・神奈川県では200万世帯に太陽光発電を普及させるという話があるが、その方法は、10年間家庭の屋根を借りて余剰はすべて県がとるというものである。この方法だとユーザーは屋根を貸すだけで損も得もないので、一生懸命節約する意欲がなくなり、良くないと思っている。（鈴木委員）
- ・風力と太陽光など今の代替エネルギーは先が見えている。発酵を使ったメタン、光合成をつかった水素発電が革命的な技術で将来の可能性があると思う。（岸）
- ・太陽光発電については首相が1千万世帯と行ったが、それでも福島第1原発と同じ程度。到底割に合わない。また、先ほど、各家庭での太陽光発電の余剰を倍で電力会社が買い取るという話があったが、結局、そのツケは消費者に帰ってくるので良くないと思う。（橋本委員）

田中委員コメント

- ・昨年度末に予定していたものが震災で流れ、3.11以降、はじめての推進会議だった。計画をつくる段階から係り、中期のプロジェクトに移行するところまで来た。巡り合わせだが、3.11があり、市民のエネルギーなどに対する意識が変わってきている。この期に、それぞれ活動を進めてきた皆さんがこれからどういう取組をしていくと良いのかを考えてほしい。地形の模型をみると、この街の平らな部分とでこぼこの部分がよくわかる。震災復興に向けて、饗庭先生と共に、模型エイドという取組を行っている。復興のためにどこに居住地を作れば良いかという議論を始めているが、検討するための支援として、地形模型をつくって届けるプロジェクトだ。第一弾で南三陸町に模型を届けた。現地もみて、いろいろなことを考えると同時に文明について考えるきっかけにもなった。具体の地形があり、そこに暮らしがあり、それが災害とも関係している。「エコシティたかつ」でもそのようなことを考えていけると良い。小流域という具体的な土地の形とそこでの暮らしや取組が、とても大事だと思う。区全域の取組は政策的なものや概念的なものになりがちで、スポットの取組は個別のものになり過ぎる。小流域、学校流域はまとまりのある大きさと、そこにいる人達が良い距離感で物事を考えられる単位だと思う。小流域について積極的にとらえ、様々な取組やイベントを進められると良い。小学校という単位もよくできており、小学生が歩いて通えるまとまりのある広がり、そこが避難所にもなる。このような単位で考えていけると良い。また、エネルギーについても小流域や小学校のまとまりの中でコントロールしていけると良い。出て行くものもあれば、入ってくるものもある。皆さんが取組まれているものを束ねていければ良いと思う。うまく中期のプロジェクトが発展すると良いと思う。

岸委員長コメント

- 3.11の津波被害のこともあり、小流域、流域という単位で世の中考え直そうという局面に来ていると思う。流域思考の100年エコロジー計画をすすめている高津は、先進的なことをやっていたという気づきが、内外に広がってゆくと思う。

以上